

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【報告書タイトル】

サハラ以南アフリカ地域の人口増加による社会課題の研究-コンパウンド（スラム）を題材として-

【実践者】

氏名	田村 勝太	学校名	宮城県石巻高等学校
担当教科等	地歴公民・地理総合	対象学年（人数）	1年 C組（31名）
実践年月日もしくは期間（時数）	R7年 11月 ～ 12月（計4時間）		

【実践概要】

<p>1. 単元（活動）名 国際理解と国際協力-サハラ以南アフリカ-</p>		
<p>2. 単元目標</p> <p>○単元目標</p> <p style="padding-left: 20px;">サハラ以南アフリカ地域における、人口増加で発生する社会課題を発見し、問題の構造や影響を考察して支援策を提示する</p> <p>○関連する学習指導要領上の目標</p> <p style="padding-left: 20px;">特色ある生活文化と地理的環境との関わりや地球的課題の解決の方向性を捉える学習などを通して、国際理解や国際協力の重要性を認識する。</p>		
<p>3. 単元の評価規準</p>	<p>①知識及び技能</p>	<p>サハラ以南アフリカの人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。</p>
	<p>②思考力、判断力、表現力等</p>	<p>サハラ以南アフリカの人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
	<p>③主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>サハラ以南アフリカの人々の生活文化についてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

<p>4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】 授業者がザンビアで収集した情報をもとにサハラ以南アフリカについて、学習事項の内容を深く理解してほしいと考えて単元を設定した。サハラ以南アフリカ地域の開発途上国に見られる社会課題の解決方法について考えさせたい。</p> <p>【単元の意義】 本単元はアフリカの特色ある生活文化、社会課題を対象としている。生活文化と地理的環境との関わりや地球的課題の解決の方向性を捉える学習を通して、国際理解や国際協力の重要性を認識させることを目的としている。欧米による植民地支配が現代の社会システムに及ぼしている影響を学習する。また、日本とは対照的に人口が増えている地域で発生している社会課題の構造、解決が進まない原因を考察する。その上で自分たちにどのような国際協力ができるかを考えさせたい。</p> <p>【児童／生徒観】 今回授業を行う1年C組は31名のクラスで、地理的事象に関心を持って臨むことができる生徒が多くいる。グループ活動を行っても主体的に意見を出す生徒が多くいるため活発な議論が行われる。今回対象とするサハラ以南アフリカ地域についても人種差別や植民地支配の歴史、農業の特色など基本的事項をおさえることができている。同時に、サハラ以南アフリカ地域に対して漠然としたイメージを持つ生徒がほとんどである。人々の生活を疑似体験し、問題の原因や影響を考察することで国際協力の必要性を感じさせたい。</p> <p>【教材観】 本単元では、サハラ以南アフリカ地域全体の傾向として見られる都市部の人口増加で発生している問題について、その背景や影響、実害についてウェビングマップの作成を通して学ぶ。これまでの学習でインド、ラテンアメリカでも都市部への人口増加でスラムが形成されることを学習した。今回は研修団で撮影した写真や動画を見ることで現地の様子を疑似体験することができ、既習事項の理解をより深めることができる。</p> <p>【指導観】 ザンビアは開発途上国で植民地支配の影響が色濃く残る国である。ザンビアで発生している問題がサハラ以南のアフリカ地域の他の国で同様に発生しているケースが多い。問題が発生している原因は多岐に渡ることが考えられる。そのため1つの課題に直面した際に多角的な視点から考えることは非常に重要である。多角的な視点で物事をとらえて、場合によっては他の問題と結びつくこともあるということに気づかせたい。その上で必要な支援にはどのようなことがあるのかを考えさせたい。国の内外に関わらず地球上にいるすべての人々が持続的に安全な暮らしができる方法を生徒たちに考察させたい。</p>
--	---

5. 単元計画（全4時間）			
時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	<p>『サハラ以南アフリカ』導入 〈学習のねらい〉</p> <p>①アフリカ地域の地形や国の位置について理解する</p> <p>②ザンビアの小学校で使用されている資料集から、アフリカ及びザンビアの抱える問題についての情報を収集し、社会課題について理解する</p>	<p>1 ザンビアとアフリカ地域についてザンビアの資料集から情報を収集する（人口動態、電力、携帯電話の普及率、大西洋三角貿易、ザンビア国旗と国章の意味することについて）【個人】</p> <p>2 サハラ以南アフリカ地域の地形、都市名を地図帳を見て調べる【個人】</p>	<p>・地図帳</p> <p>・教科書</p> <p>・ザンビアで販売されている小学生向けの資料集『Zambia Atlas』（ロイロノートから配信）</p>
2	<p>『生活文化に残る旧宗主国の影響』 『植民地支配の影響が残るアフリカの産業』 〈学習のねらい〉</p> <p>①イギリスによる植民地支配について、多様な考えや側面があることを理解する</p> <p>②地方の村の生活改善のために必要なことについて自分の考えを表現する</p>	<p>1 サハラ以南アフリカ地域の出来事について理解する【一斉】</p> <p>2 植民地支配でどのような影響があったか現地の人はそのことをどのようにとらえているかを考察する【ペア】</p> <p>3 地方の村において、必要な支援とは何か？ペアランキングを用いて優先順位を考える【個人】【グループ】</p>	<p>・教科書</p> <p>・研修で撮影した写真</p>
3 本時	<p>『人々の生活の変化と経済成長の取り組み』 〈学習のねらい〉</p> <p>①人口が著しく増加する都市部において、現地の生活環境について写真や動画などの諸資料を通して疑似体験する</p> <p>②現地が抱える社会課題の構造について他者の意見を踏まえながら考察する</p>	<p>1 ザンビアの首都ルサカの約7割の人々が居住するコンパウンド（スラム）の画像、動画、現地の人々の話などから問題だと感じることをロイロノート上に書き出す【個人】</p> <p>2 発生している問題、原因や影響をグループごとにウェビングマップで書き出す【グループ】</p>	

4	解決策を考える 単元の振り返り	1 前時の活動で使用したウェビングマップをもとに問題の解決策についてペアランキングを用いて考察する【グループ】 2 振り返りの記入【個人】	
---	--------------------	--	--

6. 本時の展開（3時間目）			
本時のねらい：ザンビアの都市部で発生している問題について背景や影響を多角的に考察する			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
導入 (5分)	1 1・2時間目の内容の復習と本時の説明【一斉】 ○人々が生活している街について ・何が問題か？ ・なぜ発生するか？ ・どのような影響があるか？ ・なぜ解決が難しいのか？ を 現地の人々の立場に立って考える		・ザンビアで販売されている小学生向けの資料集『Zambia Atlas』 ・現地で研修団が撮影した写真や動画
展開 (40分)	2 コンパウンド（スラム）の写真、動画、現地の人々の話から気がついたことをロイロノートの各班の共有ノート上にテキストで入力する【個人】【15分】 3 2の活動で出したことについて、ウェビングマップを作成しながら原因、影響などについて考察する【グループ】【25分】	・質より量を大事にするように指導 ・動画も視聴するように促す ・どのような問題が発生しているか、原因、影響、解決しない理由を考えるように指導 ・原因は1つに限らないことを伝える	
まとめ (5分)	4 本時のまとめ・次回の予告 ・問題の原因は多岐にわたる可能性があること ・次回は解決策、支援について考える		

9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

勤務校は青少年赤十字の加盟校であることから、他校と合同で国際理解につながる行事を本校主催で実施した。今年度の海外研修で見た景色、学んだことを生徒たちにも感じてほしかったため、写真から考えるワークショップを実施した。10枚の写真を提示して日本と共通するところ、違うところをグループで意見を出させた。ザンビアが遠い存在ではなく私たちと近い存在であることを認識してほしい目的のもとで行った。参加者はザンビアにも日本と同じく映画館があることやコンパウンドの食品販売の衛生環境に驚いていた。

ザンビアでの研修の様子を広く生徒や保護者、地域の方に知っていただくために本校の文化祭で教師海外研修の展示ブースを設けた。ザンビアの写真、チテンゲ、現地で購入した教科書やお皿などの品々を展示してザンビアのことを知ってもらう機会を作った。日本から遠く離れた国が実は自分たちと共通点を多く持ち、つながっていることを感じる事ができたようだ。生徒だけではなく、保護者からも展示を見て勉強になったとお声を頂いた。



【文化祭での展示の様子】

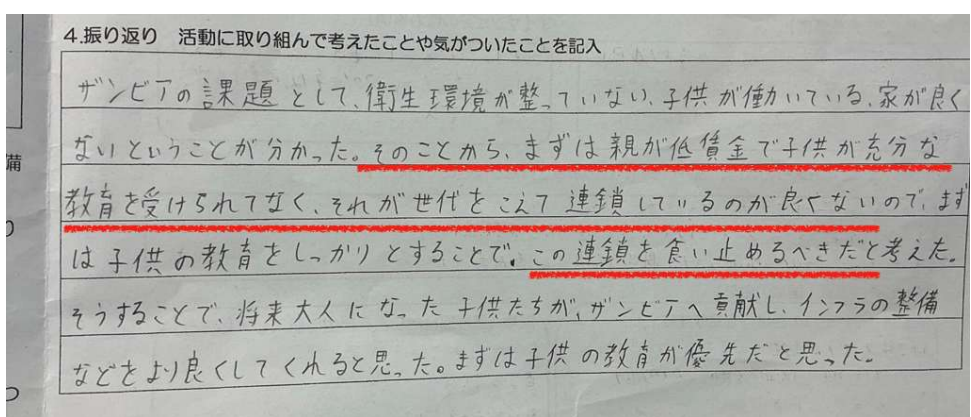
【自己評価】

10. 苦勞した点	授業時数が少ない中での実践となった。ザンビアで見てきた光景を十分に生徒たちにも見せて、深く考えさせ、どのような支援が具体的に必要なのかを思考させたかった。教科書の内容も理解させつつ、ザンビアのコンパウンドや地方の村に内在している課題の背景に存在する事象を短い時間でも考えさせる工夫を行った。しかし、生徒の心を育てる上で大事なことである、ザンビアの人々に寄り添う姿勢を身につける工夫が効果的にできなかった。
11. 改善点	スラムという抽象的なテーマで活動を行ったため生徒の問題発見も様々な内容が出てきた。前半の時間に生徒に提示した現地の写真、動画は量が非常に多かったため焦点をしぼることができなかった点は課題である。後半のウェビングマップ作成では時間を十分に確保することが難しかったため1つに問題を絞って原因を徹底して考えさせることができなかったことも改善が必要な点だ。1つのことを深く考えることによって問題構造を理解させることができたはずだったが、1時間の授業の中で行うことはできなかった。次時で引き続き、問題の背景にある原因について考えさせる時間を確保することにした。また、生徒たちの中に他の地域の文化を尊重して理解しようとする気持ちを育むことができなかったことも反省点である。事象の歴史的背景や人々がすぐに解決することが難しい理由に寄り添う姿勢を持たせたかった。次年度以降にこの単元を行う場合は以上の点を改善して授業を作っていきたい。

12. 成果が出た点
 今回は現地の様子を生徒に感じてもらいたいと考えて前半の活動を設定した。現地の衛生環境について授業者自身が感じていたことを同じく感じてくれたようだった。スラムが抱える課題についても表層的ではあるがとらえることができていた。また、1つの問題の原因を多様な視点で考えることに加えて、問題どうしのつながりをウェビングマップの作成を通して考えることができた。教科書では「スラム」としか書いていないことでもより詳細にとらえ、理解を深めることができたように思われる。現地の様子をとらえた写真や動画を見せることには大きな効果があることを実感した。生徒の振り返りにも持続可能な問題解決には人々の意識を変える必要があることの重要性を認識している様子が見受けられたことは成果だと感じている。

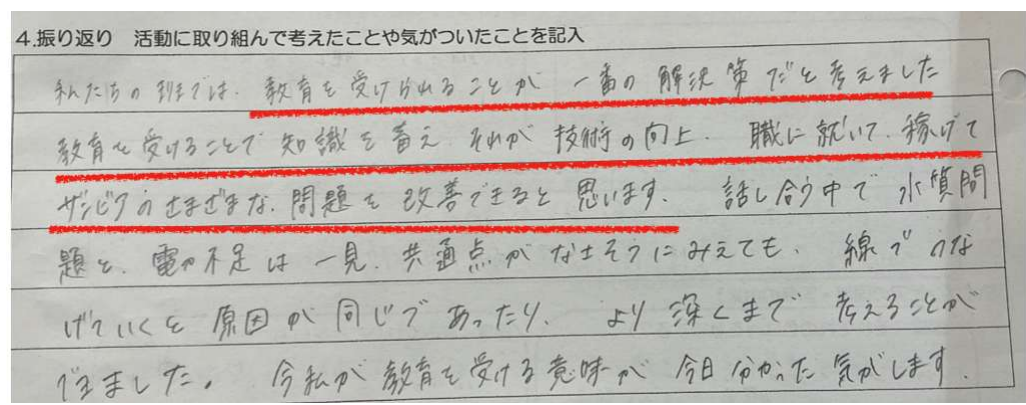
13. 学びの軌跡
 (児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど)

単元を通してアフリカのことを考えさせた結果、生徒たちには以下のような気づきがあった。



【①問題の連鎖に気が付いた生徒の感想↑】

今回授業者が伝えたかったことの1つでもある社会課題が単独で存在するわけではなく複数の問題が連鎖していることに気が付くことができたようだった。ウェビングの作成を通して、問題が複雑に絡み合うこと、世代を超えて連鎖していくことに気がつくことができたのは成果であった。



【②教育の重要性に気が付いた生徒の感想↑】

教育が十分になされていないことにより、仕事に就けないこと、質の高い仕事ができないことに気が付くことができた。また、自分たちが教育を受けることが将来の仕事につながることに気が付くことができた。

振り返り 活動に取り組んで考えたことや気がついたことを記入

ザンビアの人々の問題は考えていたものよりずっと深刻であり、特にスラムに関して
は早い解決を要する。水不足や食料などの命に関わる問題が根付いている
のだと分かりました。しかし、問題が一つでも改善できれば、他の問題も
現状を変えることができるので、まずは一つ解決しようとするのが大切
なのだと思いました。そのため周りは 水不足の解決に水を送る
のではなくて、水の供給方法を教えるなど根本的な解決を支援する
べきなのだと思います。

【③支援の方法について気が付いた生徒の感想↑】

ザンビアで過ごす中で人々の持続可能な生活について私自身が考えさせられていた。数カ月や1年間、生活を維持できるような支援ではなく、10年や20年間、支援のない状態でも持続して生活できることが必要だと気が付くことができたようだ。また、1つの問題を解決したときに他の問題も改善の方向に向かわせることができることに気が付くことができていた。

14. 授業者による
自由記述

収集した教材をどのように用いるかの難しさを感じた授業であった。授業で単に活動させるだけではなく、こちらが何を気づかせたいのかを明確にして、ねらいに対する手法を考える必要があるということであらためて感じた。限られた時間の中で幅広く取り組ませるのではなく焦点を絞って深く考えることの必要性も感じる事ができた。一方で多くの情報を提供することで現地の生活を疑似体験し、他国の社会課題に生徒が触れることができたのは有意義なことだった。今後は地球市民としての視点を生徒たちの中で養うことができる授業をしていきたい。その上で自分たちがどのような行動を起こせば世界の人にはより良い生活を送ることができるのか、寄り添うために必要なものが何かを模索し続ける姿勢を身につけさせたい。今後も授業で使う教材を集めていく中で、それぞれの地域の社会課題を授業者自身が構造をとらえて生徒に考えさせたい。また、生徒に身につけさせたい能力、姿勢を明確にして手法を考えて授業を作っていきたい。

今回の教師海外研修ではザンビアでの情報収集はもちろんのこと授業づくりの方法をたくさん学ぶことができたことが自分の中では大きな収穫であった。情報の集め方、集めた情報をどのようにして教材化していくかを意識する習慣がついた。次年度以降に参加される先生方には現地での情報収集だけではなく、自分の授業にもより磨きがかかっていく変化を楽しんでいただきたい。教材研究を通してザンビアに対する理解がより深まっていき、開発教育の力がついていくことが大変良かった。

【生徒へ配布したザンビアの写真、情報の資料】



現地の人の話

私は理髪店を営んでいます。営業をしたい屋間に停電が発生することがあって困っています。パソコンで仕事をすることもできません。夜に電気が戻ってくるがありますが、夜は営業をしないので…。



現地の人の話②

急に街が大きくなるうとして水道の整備が追いついていません。水道やトイレは近所の人たちで共同で使用しています。水道は壊れてしまって使えない場所、使えても週に何日しか水がでない場所があります。トイレは水洗ではありません。穴を掘って、そこをトイレとして使っています。穴が排泄物でいっぱいになるとふたをして近くに別な穴を掘ってトイレとして使う地域が多いです。



【授業で使用したスライド】

ザンビアの都市部で発生している問題を考えよう

1

**現地の学校
+
生活している街
を視察**

2

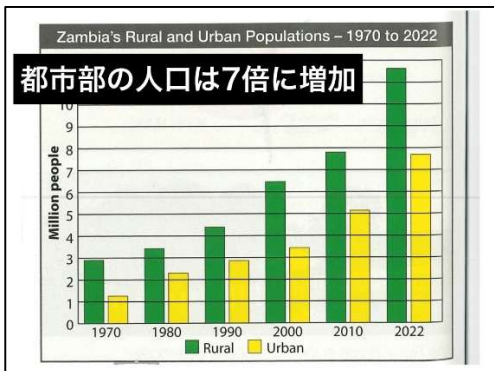
**あなたの国には
どのような問題が
ありますか？**

3

彼らが教えたくれた国の問題

- 電力不足
- インターネットが不安定
- 首都の人口増加

4



5

首都ルサカの人口増加をとっても心配しています。
都市の整備がうまくできておらず、多くの人々が住むことはできません。

マッシューズ先生

6

人々の生活している街について

何が問題か？
なぜ発生するか？
どのような影響がある？
なぜ解決が難しいのか？ を

現地の人々の立場に立って考える

7

写真+動画+資料を見て、問題だと感じたことを共有ノートに貼っていきましょう【個人で！】

- 共有ノートはグループごと
- 質より量を大事に！
- 動画が重たすぎて見れない時は近くの人と一緒に見ましょう👁️

8

都市部のスラムのウェビングマップを作成しよう【グループで！】

問題だと思うことを記入する✍️

その後に…

- 原因 ○与える影響
- 解決しない理由 など

※量より質を！

9

原因は

多様

栄養失調の子供

- 水不足
- 貧困
- 作物の種類
- 文化

10